

2026 年 3 月期第 1 四半期決算説明会 質疑応答議事録

日 時 : 2025 年 7 月 31 日 (木) 18:00 ~ 18:35

登壇者 :

取締役 (兼) 執行役員CFO (兼) CCO (兼) コーポレート部門長	渡辺 聡
執行役員CFO代行 (兼) 経営企画部長	日置 敬介
財務経理部長	岸部 茂実

用語 : PU = 電力・ユーティリティ

Q : 大阪カーライフグループの足元のビジネスの状況を教えてください。

A : 前年同期は円安の影響もあり、中古車及び新車の輸出が好調であった。当期の減益はその反動を受けたものであり、ある程度の減益は想定通りである。

Q : LP ガス営業権買収の金額規模について。また LP ガス営業権買収に係る方針について現在の状況を教えてください。

A : 1 Q の営業権買収は合計で数億円程度であり規模は小さいものであった。今後に関しても営業権に関する高買いは避けつつ、リスク・リターンを精査した上で買収を継続していく。

Q : WECARS についてコーポレートガバナンスや収益に関する現状を教えてください。

A : WECARS では管理、コンプライアンス等の改善を最優先で取り組んでおり、着実な進捗が見られる。収益面は引き続き赤字であるものの、想定通りの水準である。また最近では様々な媒体を通じた広告宣伝に力を入れおり、認知度の向上が将来的な収益の向上に繋がると考えている。

Q : PU の電力販売事業について、通年でのマージンの動向について教えてください。

A : 大きなリスクを取らず安定的に収益を確保するオペレーションを実施しており、2Q 以降で大きな損失が発生するとは現時点で見込んでいない。

Q : WECARS の広告宣伝費増加も想定済なのか。

A : 想定済みである。

Q : WECARS のブランド力や企業イメージの状況について教えてください。

A : 同業に比べて認知度は低いが、TVCM などを通して認知度を上げていきたい。

Q : 中古車販売は拡張性の高い事業領域であると考えられるが、M&A 等を含めた今後の施策など教えてください。

A : まずは WECARS の黒字化を最優先課題として収益回復に注力しているが、ビジネスの拡がりを期待できる業界であり、並行して同業への M&A や付随サービスの展開も検討している。

Q : 電力マージンの動向について、詳細を教えてください

A : 卸・高圧・低圧の区分では、必ずしも利幅は同方向の動きではないが、全体としてはバランスの取れたオペレーションで利幅を確保するよう努めている。

Q : 燃料油価格激変緩和補助金の影響やガソリン暫定税率の廃止はどのような影響が出るのか。

A：原則、当社の商売は利幅商売なので影響は中立的である。ただし、価格が下がれば需要が増加することが想定され、販売数量増加による増益は期待される。一方、今後ガソリン暫定税率の廃止が決まれば在庫数量をコントロールし、影響を最小限に留めるよう努める。

Q：PU における PV 投資は具体的にどのような内容か。

A：主は、当社が資産を保有し、顧客が保有・管理する敷地や屋根をお借りして、太陽光パネルを設置する太陽光設備への投資である。当設備により発電された電気を顧客に販売するスキームとなっている。

Q：上越にあるガス火力発電所に関し、中長期で更なる増設の可能性は高いか。

A：上越の発電所に関しては、送電設備の有利さはあるが、山間部にあり大きく拡張していく事は難しいと考えられる。上越に限定しなければ、ガス火力発電自体は拡大も含め状況に応じて検討する。

以上